

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	機能再建・再生科学領域 脊椎脊髄病態修復学 教育研究分野 氏名 山内 良太
指導教授氏名	石橋 恭之
論文審査担当者	主 査 水上浩哉 副 査 大山 力 副 査 小林 恒
(論文題目) Association of clinical and radiographic signs of femoroacetabular impingement in the general population (一般住民における大腿骨寛骨臼インピンジメントの理学所見と X 線所見の関連)	
(論文審査の要旨) 本研究では一般住民における大腿骨寛骨臼インピンジメント (FAI) の診断に対し、理学所見と寛骨臼や大腿骨の X 線形態所見を関連させ、その診断意義を検討している。 FAI は大腿骨あるいは寛骨臼の骨形態異常によって股関節運動時にインピンジメントが生じ、その結果、変形性股関節症をきたす病態と考えられている。このことから、X 線検査による寛骨臼や大腿骨の骨形態異常所見が重要視される傾向にあるが、最近では理学所見を含め総合的に判断すべき病態であると認識されてきている。そこで、2014 年度岩木健康増進プロジェクトに参加した一般住民 616 名を対象とし、股関節痛として日本整形外科学会股関節疾患評価質問票 (JHEQ) における痛みスコア、理学所見として股関節可動域、Anterior impingement sign (AIS) の有無、FAI に特徴的な X 線形態所見である Cross-over sign (COS) などの有無を調査した。統計学的解析では、AIS 陽性群と陰性群の 2 群間で各調査項目を比較した。また、股関節痛に関連する因子を検討するため、JHEQ 痛みスコアを従属変数、関連する因子 (年齢、性別、理学所見、X 線所見) を独立変数とした重回帰分析を行った。さらに、AIS 陽性に関連する X 線所見を検討するため AIS の有無を従属変数、X 線所見を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。 結果を以下に記す。AIS 陽性は男性 7 名 (3.4%)、女性 29 名 (7.1%) に認めた。AIS 陽性の 36 名のうち、COS などの X 線形態所見を認めたのは最高 3 名と僅かであった。重回帰分析の結果、股関節痛と関連するものは年齢と AIS 陽性であったが、ロジスティック回帰分析では AIS 陽性に関連する X 線形態所見は認められなかった。 本研究において、一般住民を対象とした時は、FAI に特徴的とされる X 線形態所見は股関節痛や AIS と関連しないことをはじめで見出した。今回の結果から、FAI の診断で AIS 陽性の場合、X 線形態所見に拘わらず、FAI を疑って精査すべきことが示唆された。FAI の診断精度の改善につながる可能性から新規性、有用性も妥当であり、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	Journal of Orthopaedic Science (掲載予定)